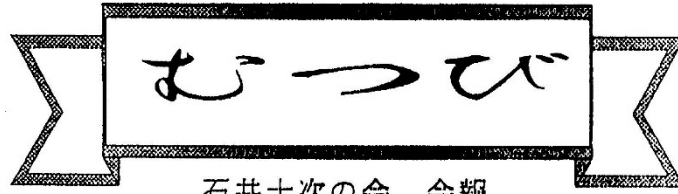


2020年  
(令和2年)  
11月12日



278号

## 『志』の問われる「石井十次資料館」

都城市立南小学校 校長 荒木秀一

石井十次資料館を訪ねるたびに、十次先生の志と実践に思いを新たにする。

「孤児のため 命をすてて 働かん とわの眠りの 床につくまで」  
資料館の葉には、「一人の巡礼の子を預かったのをきっかけに医学の道を捨て、一時は1200人を教育して48才の生涯を孤児教育に捧げ、二千数百人の子供達を世に送り出した。」と記されている。まさに、上の短歌通りの、希有の人生を歩んだ日本における児童福祉の父である。資料館の中を渉猟すると、日本以上に知名度が海外で高い賀川豊彦氏が、亡き石井十次先生にあてた手書きの詩が2編ある。彼は戦前においては、ガンジー、シュバイツァーと並び、現代の「三大聖人」の一人として称された方である。

「石井十次胸像の下で」  
賀川豊彦

三人の嬰兒に囲まれ  
石井十次  
朝露を浴びて立つ  
慈眼温容の丈夫  
勇気と信仰の  
闘士  
子供の友  
貧しさをねぎらひ  
傷めるを憐みし  
彼が幾十年の苦闘  
見よ  
岡山の  
門田屋敷の  
その一角に  
嬰兒は踊る  
うれしげに  
石井十次の墓石をめぐり  
嬉しげに  
天を見あげて  
児童は  
踊る  
手を打ちつらね  
嬉しげに  
児童は  
踊る



茶臼原にて  
茶臼原  
眠れ、愛の使徒  
樟の葉陰に  
エミールの谷は  
今や繁り  
愛の森は 成育した  
此処に  
愛の計企 空しからず  
ニニギのミコトの それにも似て  
日本の新しき意図  
此処に ひらかる  
石井十次よ  
永遠に ねむれ

ト  
ヨ  
ヒ  
コ

社会事業家であり、牧師である賀川氏の評を、大宅壯一氏は追悼文の中で次のように称賛する。「大衆の生活に即した新しい政治活動、社会運動、組合運動、農民運動、協同組合運動など、およそ運動と名のつくものの大部分は、賀川豊彦に源を発していると云っても、決して云いすぎではない。近代日本を代表する人物として、自信と誇りをもって世界に推挙しうる者を一人あげようと云うことになれば、私は少しもためらうことなく、賀川豊彦の名をあげるであろう。かつての日本に出たことはないし、今後も再生産不可能と思われる人物一、それは賀川豊彦先生である。」

スラム街に住み込み、結核に苦しみ、信仰に生き、「友愛」・「自助と共助」を核とした理想とする社会を実現しようとした賀川氏の生き様は、十次先生の言葉「天は父なり 人は同胞なれば 互いに相信じ 相愛すべきこと」に連なるものがあつたと推察する。それが故に、「石井十次胸像の下で」「茶臼原」という詩を創り、十次先生の功績を心から称え、己が志を彼もまた、十次先生との出会いを通して確認しているのである。

さらに、十次先生の「時代教育法」は、現在においても十分注目に値する内容である。

その根幹には、ルソーの『エミール』との出会いがある。明治27年4月より11月までの227日間、英文の『エミール』の訳読を職員より聞き学ぶ。そして、自分は『エミール』教育を実践するために神から遣わされた人間であるとも考えるようになる。ルソーは、「子供の教育は、心身の自然な発育段階に応じて、子供の自主性を育て尊重して、諸能力を引き出すことにある。」としている。十次先生の頭の中でイメージは膨らみ、茶臼原での自然教育へと発展していく。そうして明治27年、茶臼原開拓が始まっていった。

時代教育法：『幼児は遊ばせ、子は学ばせ、青年は働かせる』

- ① 10歳未満の児童は、茶臼原で自由自在に遊ばしめる。
- ② 10歳から15歳の少年は、岡山に連れ帰り、学校教育を受けさせる。
- ③ 16歳から20歳の青年は、院内で実業教育を受け、農工商に奉公させる。

現在においても幼児教育は、以下のように「環境を通して行う教育」を基本としている。

- 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開  
(幼児は安定した情緒の下で自己発揮をすることにより発達に必要な体験を得ていく)
- 遊びを通しての指導を中心としてねらいが総合的に達成されるようにすること  
(「遊び」は、幼児にとって重要な「学習」)
- 一人一人の発達の特性に応じること

十次先生が『エミール』に感動し、ルソーの自然教育から得た、自然の中で自由に遊び学ばせる一大ユートピアの建設は、石井記念友愛社はもちろんのこと現在の日本の公教育にもしっかりと具現化されていると言っても過言ではない。

1年の内、何度か石井十次資料館を訪問する。開扉と同時に中に入ると、壁面にはめ込まれたスタンドグラスの十次先生が迎えてくれる。その前でしばし佇み、じっと祈る。そうすると内なる声が聞こえてくる。己が志は如何と、何を考え何を為しているのかと、深く深く自問自答は繰り返される。また、一つ一つの資料を読み、先生の思いや行動、様々な先達との深き絆に感銘を受ける。「敬天愛人」とは西郷南州翁の言葉だが、今の時代に希薄化しつつある「敬」と「愛」のこの2文字の大切さを、ここに来ていつも感じさせられる。光に包まれた静謐な時間と空間は、至福の時ともいえる安息の場でもある。

# 見えないコロナとの闘いに「十次」を考える

石井十次の会 副会長

都城支部 副支部長 新森 初男

この度、前回に引き続き寄稿をご依頼いただき誠に有難うございます。

前回書き添えたように、石井十次の志を我が志としその理念と一緒に暮らしを歩む私にとって大変嬉しく感謝申し上げます。

さて、石井十次の会に参加している私の現状の間口と奥行きについて述べたいと思います。現状は、活動域として都城支部での活動に邁進している次第で、支部活動のアクションプランの充実を図りつつ努力中ですが、コロナウイルスの発生により具体的活動が思うように実施できにくく、ピンチをチャンスにするよう支部のグレードアップに関して充電し模索している状況です。あらためて、石井十次の足跡に関する内容の解明について再挑戦の状況にあり、内容の増幅を図りつつスキルアップに向けて走り出しております。

まず、頭に定着している方向性と、強烈なスタートの石井十次と大原孫三郎の出会いの結びつきについて再確認をし、バックステージの移り変わりに順応して（人間らしく生きていく知恵）を学ぶことへ心を新たにしたいと考えております。

現状のコロナウイルスのことで思いつくこと。

明治28年（1895年）岡山では患者3000人が感染し大流行したコレラが岡山孤児院も直撃し、院児・職員のみならず30歳の十次も罹患し九死に一生を得た先人の経験を糧に、今回のコロナウイルスを乗り切る結束を再確認できればと考える今日であります。そして十次自身を苦しめたコレラに加えて、品子の死という壊滅的打撃をも乗り越えた精神力と行動力は深く受け止めるべき内容と考えているところです。

また、予想もできないコロナウイルスの遭遇に対して、人の出会いの感動を新たに認識する石井十次の会の結束で力を頂いていることに感謝感謝です。

まだまだ人生現役を継続できるようポテンシャル(エネルギー・可能性)の維持、そして実践へと進めていければいいなあと、意思強化しつつ十次の精神力、活動の幅・そして実行力に関して、生きる神通力として学び、支部の元気さ開発へ努力し組織拡大と会の充実が満たされるよう努めていきたい。そして十次の苦闘の人生観(児童養護に関わる約30年)から『生きることは動くこと』への再認識として実感を強めたいものです。

さらに付け加えれば、十次の信念の強さを現社会に投影した時に意思の強固な人間として生きる目標に、

- ①行動を開始する力
- ②継続する力
- ③乗り越える力

をセルフコントロールできるよう、大きな社会を見る眼（まなこ）で毎日を送りたく考える今日この頃です。

おわりに、当支部の結束の裏付けの一つであるノミニケーション（飲ん方）が実行できずにいて残念ですが、自粛の期間を大切に人間改革へとシフトしたいと考えております。ありがとうございました。



## 《 お し ら せ 》

### ★新会員のご紹介（敬称略）

【宮崎市】谷口 真由美 宮田 晶子  
片平 達也 和田 由美  
笠江 和生 川畑 泰俊  
【新富町】久保 ゆかり

### ★9/21～10/20の資料館来館者

団体・グループ	30人
個人	9人
計	39人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により10月20日までのものとしています。

### ★12月号の通信発送作業

11月10日（木）9時から印刷・製本  
11日（金）9時から印刷・製本

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1  
後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール

[yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp](mailto:yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp)

### ●各種イベント中止

毎年開催されておりました友愛園の秋季のイベントが中止になりました。

イベントの中でも、特に残念なのは、たくさんの来園者で賑わう「収穫感謝祭」です。園児、職員、ボランティアの方々が丹精込めて育てた農産物の「無料振る舞い」・友愛園児有志の「演技」・一生懸命に練習した可愛い保育園児たちの「演技」も見られないことになってしまいました。※改行

また楽しく、美しい音色を奏でる、秋の音楽会の「森のコンサート」、児童たちと会員のグランドゴルフ交流会も。来年を期待しましょう。



写真は 昨年の収穫感謝祭の様様です

### ※ 編集後記

「むつび」巻頭の1～2頁は都城市立南小学校長の荒木秀一様、3頁は都城支部の新森初男様からの玉稿をいただきました。ありがとうございました。

友愛園と町道沿いに見事に咲いていた多種の「カンナ」も道行く人を楽しませてくれましたが終わりの時季を迎えています。

・・・文責 生駒